



宇宙就活2008

年次報告書

目 次

1. プロジェクトマネージャーより皆様へ.....	1-2
2. 団体概要.....	3
3. 宇宙就活 2008 タイムテーブル.....	4
4. 宇宙業界分析.....	5
5. ブース訪問.....	7
5. グループディスカッション.....	9
6. 懇親会.....	12
7. 参加者データ.....	13
8. 取材.....	17
9. アンケート結果によるイベントの評価.....	18
10. 謝辞（能美）.....	21
11. 宇宙就活 2008 実行委員会 メンバー.....	22
12. 協賛・出展・協力企業、広報協力団体一欄.....	23



宇宙就活 2008 は 11 月 29・30 日（土・日）に国立オリンピック記念青少年総合センターにて学生の手で開催された、日本唯一の宇宙業界向け就活イベントです。全国より多様な専攻の学生 223 名を集客しました。

彼らに“自分なりの宇宙開発へのかかわり方を考えるきっかけ”と“宇宙業界で働く実感”を提供すべく、経営分析手法を用いての**宇宙業界分析**、宇宙業界を志す上で重要と思われるテーマでの**ディスカッション**、（独）宇宙航空研究開発機構、宇宙技術開発（株）、テクノソルバ（株）をはじめとする 12 社の**人事・若手社員を交えたブース訪問**を実施しました。

1. プロジェクトマネージャーより皆様へ

「自分は社会にどういう形で関わっていけばいいのか?」「宇宙開発にどういう形で関わっていけばいいのか?その先になにがあるのか?」という問いへの自分なりの答えを探すプロセスの一つとして、また自分と同じ問いを考える人すべてにとって、答えを見つけるきっかけになってほしいという思いから、代表となったこの1年、多くの方のご協力を経て2008年11月29・30日(土・日)宇宙就活2008開催にいたることができました。

ロマンや漠然としたイメージが先行しがちな宇宙業界を“働く場”としてとらえ直そうというコンセプトを起点に今年度は全てのプログラムの見直しにとりくみ、企業取材や若手社員専用ブースの設置など新たな試みもスタートいたしました。

そうして迎えた2008年度北海道から九州まで日本全国から過去最大となる223名の学生に来場していただくことができました。また出展企業も12社と昨年度より2倍の規模へと拡大し、気がつけば単一業界向け就職活動イベントとしても最大規模となっていました。

イベント後参加学生・出展企業の皆様より続々と頂く感想をお聞きした今、参加学生の皆様には“働く場としての宇宙業界のイメージ”を、そして出展企業の皆様には“宇宙業界を志す多様な専攻の学生との出会いの場”をわずかながらでも提供できたのではないかと考えています。

これらはひとえに協賛企業、協力企業及び協力団体の皆様方のご支援、また宇宙就活スタッフOB/OGをはじめとした各方面からのご指導あつてのことと存じ、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後ともどうかご指導よろしく願いいたします。

宇宙就活2008実行委員会 プロジェクトマネージャー
首都大学東京 システムデザイン学部システムデザイン学科
航空宇宙システム工学コース 3年 能美 康彦

2. 団体概要

団体名：宇宙就活 2008 実行委員会

設立；2008 年度 3 月 23 日

代表：能美 康彦（のうみ やすひこ）

首都大学東京 システムデザイン学部システムデザイン学科
航空宇宙システム工学コース 3年

E-Mail；utyuusyuukatu2008sankauketuke@yahoogroups.jp

URL；<http://spacedreamers2008.web.fc2.com/index.html>

メンバー所属大学：早稲田大学、静岡大学、東京大学、首都大学東京、東海大学、信州大学、横浜国立大学、創価大学（8名）

「働く場として宇宙業界を考える」、「興味はあるが情報源がない人にこそ情報を」をコンセプトに、日本唯一の宇宙業界向けの就職活動イベント企画運営している学生団体です。関東圏の学生8名と、社会人アドバイザーから構成されています。

2008 年度 11 月 29・30 日（土・日）に日本唯一の宇宙業界向け就職活動イベント、宇宙就活 2008 を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催、全国より 223 名を集客いたしました。また出展企業に対して取材を行い、HP にて広く学生に公開しております。



3. 宇宙就活 2008 タイムテーブル

11月29日

10:30～12:00 宇宙業界分析

- ・宇宙業界の7大ニュース

富樫 悟氏 (東海大学)

- ・宇宙業界分析

田中 和生氏 (信州大学経営大学院)

- ・宇宙業界の仕事

峰松 拓毅氏 (有人宇宙システム株式会社)

13:10～15:50 ブース訪問

・

15:50～16:50 軽食会

11月30日

10:30～12:00 ディスカッション

- ・分科会1: 自分なりの宇宙開発へのかかわり方
- ・分科会2: 有人宇宙開発は必要か否か

13:10～16:40 ブース訪問

17:30～19:30 懇親会@レストラン とき

4. 宇宙業界分析

目的

- (1) ビジネス環境、就職の環境としてみたときの宇宙業界全体の特徴は何か
- (2) どのような企業群があり、それぞれどういった役割を果たしているのか？
- (3) 働く場としてみたときどういった特徴があるのか？
- (4) 今どういった傾向で動いているのか？

の4点をポジティブな情報、ネガティブな情報を含めて学生に伝えるべく、3名の講師から御講演頂いた。

講師紹介

講演1：宇宙業界の7大ニュース

名前：富樫 悟（とがし さとる）

所属：東海大学 工学部航空宇宙学科 4年

経歴：2007年 宇宙旅行販売会社ロケットプレーンキスラージ
ジャパンでインターンの後にオーストラリアへ。

同年8月～2008年

ビジネスカレッジに通いながら現地ベンチャーで働く。

2008年 Rocketplane Global, Inc に Student staff として所属。宇宙利用コンサル
ルティングのアシスタント活動を行う。

同年夏 NASA で宇宙太陽発電のビジネス転用プロジェクトインターン参加



講演2：宇宙業界のマクロ分析～宇宙業界ってどういうこと？～

名前：田中 和生（たなかかずお）

所属：信州大学経営大学院 修士2年

経歴：2007年 東海大学 工学部 航空宇宙学科

2008年～ 信州大学経営大学院にて、宇宙開発の
合理的な研究手法の研究中。

2009年 コンサルティング会社に 勤務予定。



講演3：宇宙業界の仕事

名前：峰松 拓毅（みねまつひろき）

所属：有人宇宙システム株式会社（JAMSS）

経歴：2007年 3月大阪府立大学工学部航空宇宙工学科卒業

同年 4月 有人宇宙システム株式会社入社

JEM（きぼう）運用業務に従事



講演内容

講演 1 : 宇宙業界の 7 大ニュース

日本で宇宙業界の就職活動をするに辺り、重要となるであろう近年の 7 大 NEWS とその背景、相互の関連を皮切りに現状の宇宙業界の動向を整理、解説して頂きました。

講演 2 : 宇宙業界のマクロ分析～宇宙業界ってどういうこと?～

宇宙業界内部分析としての企業群をそれぞれの特徴により宇宙開発グループ、宇宙利用グループ、宇宙コンテンツグループの 3 つにカテゴライズしたのち、5-Forces 分析により、利益のドライバーとなる要因を見極めることを通じ、各グループの特徴を明らかにして頂きました。

引き続き外部環境分析として、どのような要因が業界に影響を与えるかを PEST 分析により示していただきました。最後にこれまでの分析をもとに、就職する上でどのような点に心がけるべきかの学生へのメッセージを頂くとともに、就職状況に関しても分析を加えて頂きました。

講演 3 : 宇宙業界の仕事

業界全体像の講演に引き続き今度は、実際に宇宙業界で業務に従事されている講師より実際に働く上での特徴として宇宙開発グループ、宇宙利用グループ、宇宙コンテンツグループそれぞれがどのような企業によって構成されているのか? また実際どのような業種があり、どのような業務を行っているのか? それらは他業界と比較した際どのような特徴があるのか? 実際に働く上ではどのような能力が求められているのか? 等を解説して頂きました。



5. ブース訪問

5.1 目的

各企業の業務内容や職場の雰囲気なのかを知り、自分は宇宙業界のどの企業でどんな業務に興味があるのかを知ることが目的です。2008年度は“働く場として宇宙業界を考える”をテーマにしていたこともあり、働く実感を得られるようなブース訪問になるように工夫し、以下の4つのシステムを採用しました。

- ① 企業ブースと若手ブース
- ② 目安箱の設置
- ③ スタンプラリーの実施
- ④ 休憩室

① 企業ブースと若手ブース

企業ブースとは人事の方を中心にお話していただく採用関係のお話や業務全般についてお話頂くブースです。通常の就活イベントをイメージしました。



これに対し若手ブースとは普段働いている様子が分かるような、若手の方個人の業務内容や就活時の不安などを若手の方にお話頂くブースです。OB訪問の様な場をイメージしました。各ブースに、若手社員様の自己紹介を貼り出し、どのような社員様がお話してくださるか分かるようにしました。



どちらのブースも、1日目は20分、2日目は25分を1タームとして、スタッフからのアナウンスがあったら、ブースを移動してもらうこととなるべく多くの企業を学生が知る事ができるよう工夫しました。

②目安箱の設置



・各企業ブースごとに「質問しづらいを質問は匿名で質問できるシステム」として**目安箱**を設置しました。これは学生が企業を回っている間に質問しづらい質問を目安箱に入れ、後半の時間にスタッフがブースを回り、質問を代読するというものです。

③スタンプラリーの実施

1日目	SED	中央 エンジニア リング	MELOS
ソラン	YSEC	ISTS	SSD
SED	中央 エンジニア リング	JAXA	2日目
リバネス	テクハルバ	YAC	JAMSS

・各企業ブースでシールがもらえ、全てたまと景品がもらえるスタンプラリーシステムを導入することで参加者になるべく多くの企業を回っていただくことを意図しました。尚、今回の景品は(財)日本宇宙少年団様から提供して頂きました。

スタンプラリー台紙

④休憩室

企業ブース・若手ブースとは別に休憩室を設けました。お菓子と飲み物を用意し、参加者同士の交流や休憩の場所としました。

また、休憩中の読みものとして取材記事を貼り出しました。参加者に意見を書いてもらうスペースも用意しました。2日目のグループディスカッションの後には、休憩室で議論を再開するグループもありました。



書き込みスペース



休憩室の様子

5. ディスカッション

参加者の多様なニーズにお応えするため2つの分科会を用意いたしました。

●分科会1；自分なりの宇宙業界へのかかわり方

分科会1 目的

- ・自分がこれから宇宙業界にどう関わっていきたいか、を考える自己分析のきっかけにしてもらうこと
- ・参加者同士の交流のきっかけとなること

分科会1 概要

みんなの意見を聞いてみたい方、改めてじっくり自分の志望動機を考えてみたい方を対象にこちらのグループディスカッションでは自己分析のきっかけとして、「自分がこれから宇宙業界にどのように関わっていきたいか」、を参加者同士で話し合っていました。自分が何をしたいか、どんなことに関わりたいかを考えることは本格的な就職活動の第一歩と言っても過言ではありません。そういった意味で、他の参加者が宇宙業界にどのような魅力を感じているのか、どうやって宇宙開発に関わろうとしているのかを知ることはきっと就職活動を続ける上での助けになるでしょう。

この分科会では宇宙業界への就職を志したきっかけや、宇宙業界に感じる魅力などの、各々の就職活動へのモチベーションを語り合っていました。

分科会1 内容

【タイムスケジュール】

時間割	ワーク内容
10:00~10:15	開始挨拶、GD説明
10:15~10:35	アイスブレイク
	・自己紹介 ・宇宙就活2008初日まとめ」ワーク※
10:35~11:20	ディスカッション
	質問用紙書き込み(5分)
	自己分析ディスカッション(35分)
11:20~11:45	発表(5分)
	作文作成

※「宇宙就活 2008 初日まとめ」ワーク：
1 日目の宇宙就活の感想や、得られた情報を班内の参加者で共有しながら、配布しておいたプリントにそれらを書き込んでまとめてもらいました。

まず始めに参加者にはアイスブレイクとして、自己紹介と軽いワークを行ってもらい各班の参加者同士で打ち解け合ってもらいました。その後、事前に配っておいた自己分析ワークシートの質問に答えていただき、その答えを30分ほど各班で話し合ってもらいました。話し合いの最後には「各班の中で最もインパクトのある答えを発表してもらおう」時間を設け、一部の班の代表の方に発表してもらいましたが、どの答えも宇宙へのあこがれと熱意に満ちたもので、参加者の宇宙就活への意識の高さが感じ取れました。話し合いはどの班も非常になごやかで盛り上がっているように見えました。

最後に、「あなたなりの宇宙業界への関わり方とは？」という質問に作文形式で答えていただきました。最後の20分間は会場全体が静まりかえり、参加者の皆さんは真剣に自分の思いを紙に書いていました。一部の班では最後の作文も発表し合うなど、最後まで活発な意見交換がなされていました。



●分科会 2 ; 友人宇宙開発は必要か否か

分科会 2 目的

- ・これまでと違った新しい考え方や視点などを得てもらう。
- ・参加者同士の交流のきっかけとなる。

分科会 2 概要

自分の意見を多くの人にぶつけてみたい方を対象に日常では深く話すことのないテーマについて自分の考えを見つめ直すと共に、他の人の意見を聞き討論することで新しい考え方や視点などを得てもらうためのディスカッションを行いました。

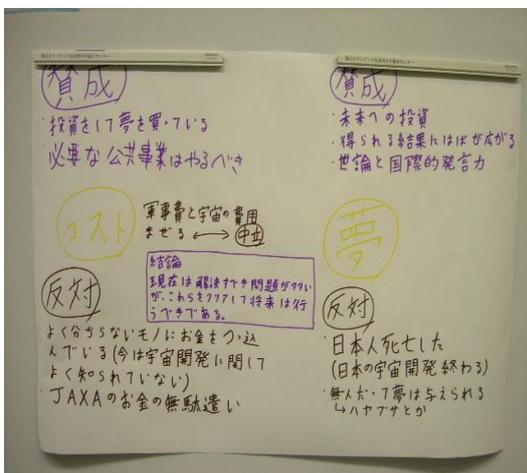
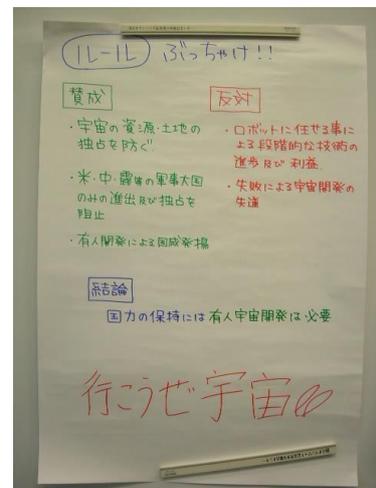
分科会 2 内容

時間割	ワーク内容
10:00~10:15	プレゼン&全体説明(15分)
10:15~10:30	アイスブレイク(15分)
	・グラドルールの設定
	・自己紹介
10:30~11:25	ディスカッション(55分) 有人宇宙開発は必要か否か
11:25~11:35	発表(10分)
11:35~11:40	アンケート(5分)

宇宙開発を志すならばだれもが考えるであろうこのテーマについて、グループごとにディベート形式のディスカッションを行いました。参加者同士でのある程度の知識共有になるよう、ディスカッション前には『宇宙開発の現状について』の簡単なプレゼンテーションを行ったのち、議論を行いました。

ディベートのプロセスは以下の通りです。

- ① 5分程度各自で考える時間を取る : 5分
- ② 有人宇宙開発についての是非を理由と共に各自述べる : 15分
- ③ 賛成・反対に別れて討論する (発表&掲示する意見をまとめつつ) : 50分



どのグループも予想以上に議論が盛り上がり、まだまだ話し足りない様子でした。目的通り、皆いろいろな意見を聞くことで、新たに得るものも多かったように思われます。

最終的には「説得力の高い」、「オリジナリティがある」などの賛成・反対意見を各グループで選んで代表者が発表し、その意見以外にも良いと思われるものをグループごとでポスター形式にしてもらいブース訪問中の休憩室に掲示してもらいました。

6. 懇親会

2日目 17時40分から、宇宙就活2008イベントの会場であるオリンピックセンター内にあるレストラン「とき」で懇親会を行いました。

今回イベントに出展してくださった宇宙業界/企業の社員・内定者の方々はもちろん、懇親会に駆けつけてくださった出展企業以外の社員の方々も加え盛大に行われました。



おいしい料理・お酒を楽しみながらも、この2日間で得た知識や新たに発生した疑問をもとに本音で語りあえました。 最後には参加者全員が笑顔で帰宅していただきました。

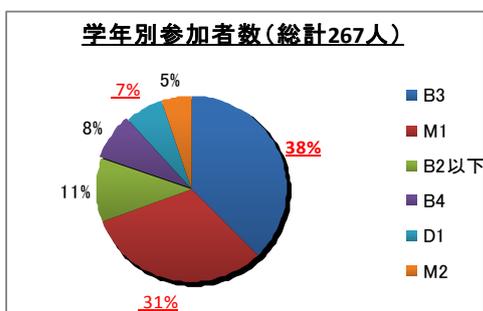
7. 参加者データ

参加者数データ

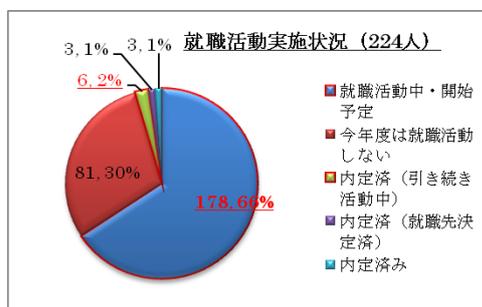
参加申し込み数・来場数(人)；来場数は会場からの目算より

	29日(土)	30日(日)
参加申し込み数	193	165
参加来場数	171	135

学年別参加者 (参加申し込みデータより)

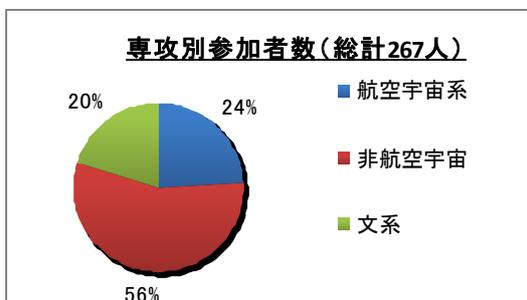


就職学年 (B3、M1) は全体の **76%** (202人) であった。



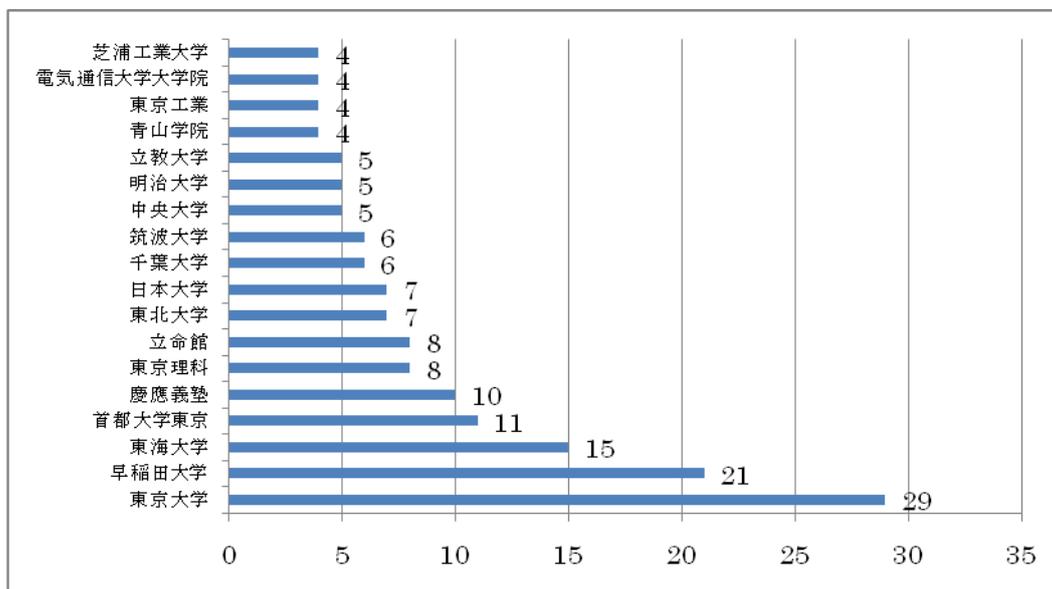
実際に現段階で就職活動を行っている学生の割合は **68%**、178人であった。

専攻別参加者



専攻別では非航空宇宙の学生の割合が非常に高く、様々な分野から参加者が集まっていることが読み取れます。さらに昨年度と比較すると文系の参加率が高くなり、文系という立場から宇宙からへの関わり方を求めて参加したという声がありました。

参加者出身大学 参加受付データより



グラフ 3 所属大学別参加者人数 (4人以上単一大より参加があったところのみ)

関東圏主要大学からの参加者が大半であることが読み取れます。

例年北海道や鹿児島など全国より参加を頂いておりますが、どうしても金銭的負担がネックになって参加できないという声を数多くいただいております。そこで今年度はSED・テクノソルバ様からの協賛により、【就職学年】で【関東圏近辺外から来場される方】に対して金銭的な補助を実施いたしました。結果地方出身者は40人の参加者が集まり、全体の約24%を占めました。

下記に上記グラフ3以外の参加者出身校を示します。

【関東圏その他大学】

工学院大学	宇都宮大学	日本工業大学
埼玉大学	横浜市立大学	日本大学
上智大学	学習院大学	文教大学
千葉工業大学	群馬大学	名城大学
総合研究大学大学院	慶應義塾大学	明星大学
横浜国立大学	御茶の水美術専門学校	國學院大学
群馬大学	順天堂大学	法政大学
成城大学	成蹊大学	杏林大学
津山工業高等専門学校	創価大学	一橋大学
帝京大学	大正大学	茨城大学
東京テクノロジーコミュニケーション専門学校	長岡義塾大学	東邦大学
東京学芸大学	東京外国語大学	
東京農工大学	東京工科大学	
お茶の水大学	東京電機大学	
日本獣医大学	東京藝術大学	

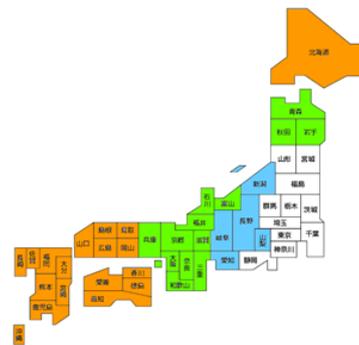
【地方その他大学】

九州大学	鹿児島大学	佐賀大学
山形大学	秋田大学	名古屋工業大学
静岡大学	島根大学	名古屋市立大学
大阪大学	富山大学	岩手県立大学
武蔵野工業大学	兵庫県立	近畿大学
北海道大学	北里大学	奈良女子大学
名古屋大学	高知大学	京都大学
九州工業大学	高知工科大学	東北大学
九州職業能力開発大学校	山口大学	関西学院大学

地方参加者補助金決定プロセスについて

(1) 日本全国を以下3エリアに分類

AREA①	
北海道	中国地方
四国地方	九州地方
AREA②	
近畿地方	中国地方一部
東北地方一部	
AREA③	
その他中部地方	



(2) 各エリアごとの係数を各エリア支給金額が一定値になるように決定

(3) 各エリアの一人当たりの基本支給金額

$$= \{ \text{地方参加者補助費総額} / (\sum (\text{各エリア係数} * \text{各エリアよりの参加者})) \}$$

*あるエリア係数

として最終的に以下のような結果を得た

エリア	支給金額
AREA①	7000円
AREA②	4000円
AREA③	2000円

12.1 2008 年度会計報告

支出項目	支出金額	収入予定項目	収入金額
会場代	¥57,200	参加費	¥80,000
備品代(模造紙その他)	¥9,870	初日懇親会参加費	¥65,000
初日懇親会代	¥12,230	30日懇親会参加費	¥318,000
30日懇親会代	¥379,520	昨年度繰越金	¥82,670
内定者お足代	¥15,000	協賛金	¥120,000
印刷代	¥6,000	出展費	¥60,000
* 地方出身者補助金	¥170,000	協力金	¥65,000
スタッフ取材代	¥99,445		
企業対応費	¥1,830		
支出合計	¥751,095	収入合計	¥790,670

来年度繰越金	¥39,575
--------	---------

12.1 来年度引き継ぎ物品

以下の物品は来年度にそのまま引き継ぎをされる

引き継ぎ物品名	個数	保管先
名札(通常型)	200	能美
名札(首かけ型)	10	
紙コップ	100	
養生テープ(つかいかけ)	3	
会計用箱(A4大、プラ製)	1	
バインダー(A4サイズ)	16	
模造紙(白・ピンクそれぞれ)	8	
A4仕切り用段ボール(目安箱)	7	
目安箱投稿用メモ帳	3	
模造紙	10	
ICレコーダー	1	
領収書(束)	2	

8. 取材

●目的及び概要

今回の宇宙就活のテーマである“働く場として宇宙業界を考える”を実現するため実際に現場に行って話を聞くという取材を行いました。その取材記事を読んだ学生が“自分の近い将来を思い浮かべられる記事”を目指しました。各企業の雰囲気を知り、自分の近い将来を思い浮かべることで、就活に際して、どの企業を選ぶかの手助けになると考えたからです。基本的に出展していただく企業に関しては、全ての会社に取材を行い、HP 上で公開し、イベント当日には休憩室に掲示しました。

取材例についてはHP <http://spacedreamers2008.web.fc2.com/index.html>を参照してください。

●評価

【取材記について:ポジティブなフィードバック例】

- ・自分では疑問に思わないことも質問してくれてとても参考になった。
- ・人事担当と社員へのインタビューがあるとさらにその会社のことがわかると思います。
- ・今まで自分が無知であった企業についてその一端を知ることができた。
実際にブース訪問する上でのバックグラウンドが少しついたと思う。
- ・長さは気になりませんでした。また、インタビュー形式なので、他の就活サイトの取材記よりも読みやすく、解りやすかったと思いました。学生視点ならではの質問もいくつかあり、良かったと思います。
- ・社員の一日(忙しい日ver.そうでもない日ver.)がもっと見たかったです。

【取材記について:改善点のなフィードバック例】

- ・長くてどれを読んで良いのか迷いました。
- 選ぶページに企業の簡単な業務内容が書いてあると読む企業を絞れていいのではないかと思います。
- ・フォント・レイアウトをもっと読み易いものになるよう工夫していただければと思います。
- ・アップをもう少し早くしてほしい。全く知らない分野のことについての話は少し分かりにくいところがありました。

情報が充実しているのは良かったが、その分いかに読みやすくするか、読んでもらうのかということが主に課題になったようです。

この点に関しては今年度得た知見を引き継いでいくとともに、他のインタビューとの比較を行いノウハウを蓄積していくことで単なる自己満足に終わらせずさらなる質の改善を図りたいと思います。

STAFF 側としては取材を通じて誰よりも学ばせて頂いたと思います。取材にご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします

9. アンケート結果によるイベントの評価

宇宙就活では企業、学生双方にアンケートを実施し、今年度の結果を測定すると共に改善に努めています。今回イベント終了後メールベースで学生総勢 60 名、出展企業 12 社中 11 社よりご回答いただいた結果をもとに今回のイベントの評価を行います。

アンケートでは各プログラムに対して 5 段階の評価を実施するとともに、定性的に各プログラムについて良かった点と悪かった点を伺いました。

※定性的評価に関しては後日公開可能なものに関しては WEB にてすべて公開いたします。

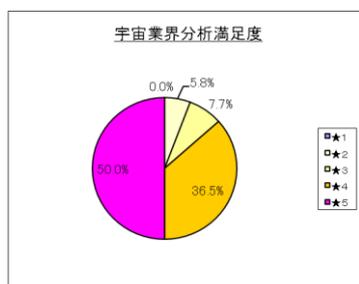
宇宙業界分析

【良かった点（代表例）】

- ・どのような分類がされているのか、仕事の流れなどを知ることが出来て良かったです。
- ・業界分析の一般的な手法から細かな業界動向まで取り扱っていた点がとても良かったです。
- ・個人で調べるには限界や洩れがあるため、情報を得るのに良い機会になりました。
- ・宇宙業界という業界が一般的には確立されていないので、自分で調べてもあまり多くの情報が集まらなかったが、今回の業界分析で宇宙業界の基礎知識を得ることができた。
- ・宇宙業界について、よい点だけでなく悪い点も含めた分析だったので、信頼できる感じがした。
- また、分析のやりかたについても触れていたのが、今後の業界分析の参考になった。
- ・宇宙業界への就職が難しいということが理解できた。
- と同時に現実味も帯びてきた。政府との関わりがよく分かった。
- ・ほとんど何もしていない状態で参加していたので大変勉強になりました。
- 厳しいとわかったことが一番残っており励みになっています。はっきりとずばずば言ってもらえたので分かりやすかったです。
- ・宇宙業界全体を見回せる前提知識が身に付き、その後のブース訪問につながりました。
- 漠然としていた宇宙業界の姿が鮮明になり、今後の企業分析の足がかりとなりそうです。

【悪かった点・要望】

- ・発表者の方がどうして宇宙に興味を持ったのかを熱く語ってくれればおもしろかった。
- ・難しいかもしれませんが、宇宙に関わる会社の数など、業界の規模が分かる具体的な数値があると、さらにうれしいです。
- ・できれば三菱重工の人と H2-A ロケットに関する仕事について聞いてみたかった。
- ・知っている人には、当たり前の事ばかりだったのではないかと思います。
- ・時間的な問題もありますが、どうしても一方通行になりがちだったと思います。
- ・駆け足気味だったので、聞くのとメモを取るので必死でした。



定性的評価から大まかには

「良い点も悪い点も伝えるという目的が達成されていること」が読み取れます、またこの目的が参加者ニーズにマッチしていることも満足度平均 4.3 の評価から裏付けられると考えています。

今後の課題として、個別企業に対するリサーチや宇宙業界の魅力を伝えること、参加者との双方向のコミュニケーションの充実が明らかになりました。

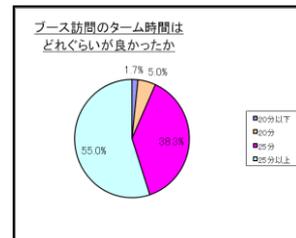
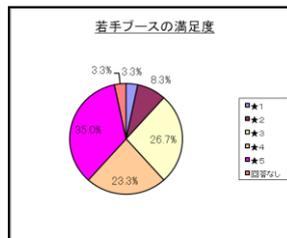
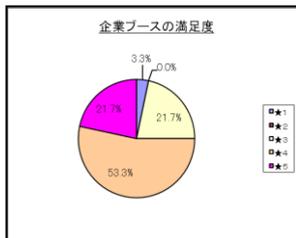
ブース訪問

【良かった点】

- ・宇宙業界の興味がある企業が多く、いろんな方向の企業を知ることができた。
- ・若手の方と話せて普通聞けないことまで知ることができた。働く自分の姿が想像できた。
- ・企業ブースと若手ブースに分かれていたこと。大まかな仕事内容を聞くブースと企業の方とよく話せるブースに役割が分かれていて聞きたいことが聞けました。
- ・他の合同説明会と比べて、質問しやすい雰囲気があった。
- ・単なる企業PR以外の話が聞けた。例えばテクノソルバ様の宇宙でやってける会社は一握り。使っている技術も古い。だから宇宙は狭い、世界へ飛び出そう！！という話がとても印象に残った。

【悪かった点・要望】

- ・時間が短く説明だけで終わってしまったブースがあったところ。
- ・タームの間に5分ぐらい休憩が欲しかった。
- ・他のブースに移る際慌ただしく、スタンプラリーに気を配る余裕が無かった。
- 説明が始まる直前に企業の方において資料+スタンプの配布をすると円滑かもしれないと思い
- ・音が大きかったので、隣のブースにいるとき説明が聞きにくいときがありました。
- ・各ターム間の移動時間が短すぎたと思う。
- ・ブースからブースへの移動が大変でした



定性的評価からは「何でも話が聞ける場を作る」という我々の意図がある程度達成されていることが読み取れます。しかしながら企業ブースの平均満足度 3.2、若手ブースの平均満足度 4.3 と企業ブースの満足度において大きな落ち込みが見られました。

この原因は参加者からの声にもあるように

① 1タームあたりの時間が短かった

実際1タームあたりの時間に関しては約9割の学生・企業が25分以上を志向していることがアンケートより読み取れます。また

② 休憩時間が短かったため移動が大変だった（企業ブースは特に込み合っていた）

ことも関係していると思われます。

特に①、②の影響で目安箱や休憩室などが十分に利用できなかったという声も聞かれました。来年度以後はこれらの点を改善するとともに、非営利目的だからこそできる学生本位のイベントづくりを一層進めていきます。また29日の段階ではイベント設営の遅れからブース訪問の時間が短くなってしまおうという運営側の不手際も見られました。改めてお詫びするとともに、今後時間的、人的余裕をもったイベント運営を心がけることで再発を防ぎたいと考えています。

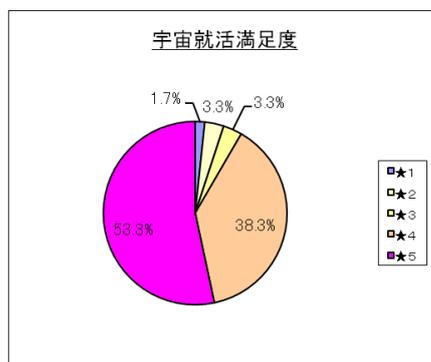
宇宙就活 2008 全体

【全体感想：ポジティブなフィードバック例】

- ・広い意味で同じ夢を持つ人間があれ程の敷集まり意見交換する機会なんて滅多にない貴重なものです。また、**実際の内定者の方達とお話し出来たのが良かった**と思います。就職した後の情報はもちろん大事ですが、**我々にとって就職するための情報も同くらい重要**だからです。
- ・**宇宙業界と全くつながりがなかった自分にとっては就活が本格始動する前に非常にいい機会になった**
- ・日本の宇宙業界の規模は小さいと良く耳にしますが、**個人的にはまだまだ知らない企業が多々あり驚きました**。
- ・私にとって一生忘れそうにない一日となりました。このような機会を作っていただいたことに心から感謝いたします。
- ・宇宙業界を志望するにあたって、**業界分析と自己分析を含めとてもよい分析の場だった**と思います。**やりたい仕事がないと思っていた企業でも、実はできたといった情報を得ることができ、今後就活を進めていく上で良い情報集めができました**。
- ・ただ一言、「**楽しかったです**」。企業方のお話もそうですが、自分と同じように宇宙業界に興味を持ち、また業界に入ることを目指す人たちとお話しできたことは自分にとってものすごく刺激になりました。
- ・**私のように宇宙業界を目指したいけれど、まず何をすればいいのかわからないといった程度の人間にとってこのイベントは本当に助けになりました**。今後もそんな人たちのためにも続けていってほしいと思います。
- ・ディスカッションがとても盛り上がり、班のメンバーと仲良くなれたり、懇親会でも多くの人と交流できてとても楽しい二日間でした。スタッフの皆様もとても親切で良かったです。**京都から夜行バスに乗って行った甲斐がありました**。

【全体感想：改善点のフィードバック例】

- ・受付がなっていない。**200人来るのに一人で受付はあり得ない**。
- ・せっかく宇宙業界をインターン等でかじった学生が話すんだから、**その人しか知らないことを踏まえて話してほしい**
- ・懇親会は**あまり酒はいらな**いと思う。実際多くの人が飲んでいなかったと思う。ならば懇親会費を安くするか料理にまわしてもらいたい。
- ・**実際に会場に行ってみると名簿に名前が載ってなかったので、その辺をきちんとしてほしい**。
- ・**ターム間に時間がなかった**ので、多少せわしなくなったり、目安箱の質問を書く時間がなかったり、企業の方も大変そうに感じた。
- ・29日受付時の混雑により**開始が30分以上遅れ、最初から最後まで駆け足になっていたのは残念**であった。



宇宙就活 2008 全体については満足度平均 4.4

と高評価を頂くことができました。この結果はアンケートの定性評価、また我々が参加者の学生と接していて感じたことと一致しております。

しかしながら、昨年度の2倍に規模を拡大したことからくるイベント運営上の不備がかなり目立っていたことが参加者の声からも読み取れます。合わせて来年度の糧といたします。

来年度への提案

【宇宙就活に提案】

- ・希望者は月曜に工場見学やOB・OG訪問というのも良さそうですね。
 - ・メーリングリストを作れば参加者達ももっと自発的に動くと思う。
 - ・関西、あるいは中部地区での開催を検討してもらえますと、当方としては有り難いです。
 - ・宇宙就活を通して実際に就職された方の話などがあってもいいかと思えます。
- また、B3やM1を対象とした情報交換の場を月に一回でも設けるといいかもしれません。
- ・早い時期から、色々な内容のアンケートを沢山取ってみるのはどうでしょう。
 - ・ディスカッションに企業の方を混ぜて行くと、学生も気合いが入り、もっと良くなると思う。
 - ・興味を持った人たちを集めて各企業訪問するのも面白いのではないかと思います。
 - ・大手メーカーの参加を頑張って欲しい！
 - ・私は文系なので、もっと文系のための企業を選んでほしい。あと、違う分野の人と話し合う機会も確かに大切だが、文系という同じ立場にある人とも将来について語る場を特別に設けてほしい。

来年度プログラムの参考にさせていただきます。皆様ご協力ありがとうございました。

10.謝辞

29日は受付、会場設営体制の不備からプログラム開始の遅延など多くの学生、出展企業の方にご迷惑をおかけいたしました。また当日配布したパンフレットにおいて三菱電機特機システム株式会社様の企業名の表記間違いがありました。この場を借りて改めてお詫びいたします。

また宇宙就活 2008 企画時は宇宙航空研究開発機構 産学官連携部（当時）の湊宣明様、シー・エス・ピー・ジャパン株式会社 航空宇宙政策・産業チーム アナリスト 金岡充晃様には貴重なご助言を頂きました。

更に、開催当初より多方面からご協力を頂きました、宇宙技術開発株式会社 管理部 総務人事課 林 伸直 様にも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

会場設営においては来場者の方全員にご助力を頂きました。特に当日スタッフとして活動してくれた、首都大学東京 佐藤光紀様、三浦太厳様、東京理科大学 石川夏樹様、慶応大学 小林雄太様、梯友哉様、東京大学 藤本翔一様、東海大学 武内文男様、本当にありがとうございました。その他お名前をここに記しきれないほど数多くの学生、社会人のご協力があったことをここに記させていただきます。

文責 2008 年度プロジェクトマネージャー
能美 康彦

11. 宇宙就活 2008 実行委員会 メンバー

■代表

能美 康彦 (首都大学東京システムデザイン学部
航空宇宙システム工学コース 3年)

■取材・ブース訪問チーフ

久保田 明夏 (早稲田大学 理工学部 物理学科 3年)

■受付・広報チーフ

春木 美鈴 (横浜国立大学 工学部 建築学科 3年)

■グループディスカッション分科会 1 チーフ・渉外スタッフ

平谷 真也 (東京大学理科 1類 2年)

■広報・HP 担当

森見 真弓 (創価大学大学院黒木研究室)

■グループディスカッション分科会 2 チーフ

伊澤 麻美 (静岡大学工学部 機械工学科 4年 山極研究室所属)

■社会人・学生アドバイザー

藤田 成子

峰松 拓毅 (有人宇宙システム株式会社)

富樫 悟 (東海大学工学部航空宇宙学科 4年・懇親会担当)

田中 和生 (信州大学大学院 経済・社会政策科学研究科
イノベーション・マネジメント専攻 修士 2年)



12. 協賛・出展・協力企業、広報協力団体一欄

■協賛企業



宇宙技術開発株式会社



株式会社テクノソルバ

■出展企業



宇宙システム開発株式会社



独立行政法人宇宙航空研究開発機構



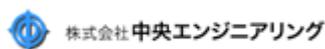
株式会社情報科学テクノシステム



ソラン株式会社



財団法人日本宇宙少年団



株式会社中央エンジニアリング

三菱電機特機システム株式会社

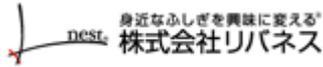
三菱電機特機システム株式会社



株式会社山之内製作所



有人宇宙システム株式会社



株式会社リバネス

■ 広報協力企業・WEB



INTERPERSONAL インターパーソナル



GAQOO ガクー



株式会社グラウンディングラボ



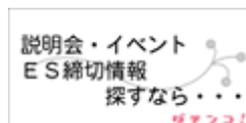
株式会社ジョブウェブ



SPACE REF スペースレフ



宇宙(そら)へ



Dachinco! ダチンコ



デジッ学生ナビ



UNIVERSE ユニバース



理系ナビ

■広報協力団体



KSE 関西スペースエクスプローラーズ



UNISEC 大学宇宙工学コンソーシアム